

オホーツクの風

平成22年10月6日(水) 0003号

発行所
北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局
北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

日赤病院への理解を 深めるために

北見赤十字病院で酒井医師(現酒井クリニック)に「喘息」、金井医師に「メニエール」と診断されて薬を処方されていますが、ここにたどり着くまでにかかった医師は十人あまり、その時々、それなりの病名をいただいて、うたれた注射がのべ数百本、皮下と血管に二本の注射が続いたこともありまして。副作用に苦しむこともなかったけれど、それではどんな「薬」であったのだろうか、と不思議に思うこともあります。しかし、人の体は、医師への批判だけで解決できることばかりではないと思います。

見赤十字病院づくりがスタートしているのは嬉しいことです。人類が初めて経験する超高齢化社会、病院や医師を頼るだけでなく、医療と介護(在宅)が連携を深めていくためにも、患者や市民が知恵を出しあっているのか、ねばと考えるのです。医療と福祉の最先端を行くデンマークやスウェーデンでさえ、官(税金)の力だけでは限界と、民の力の活用を探りはじめています。

三十年後の北見市の人口は約九万人、そこに向かって新しい北見赤十字病院が誕生するというのは心強いことです。市民・患者が自らの老後に心して、北見赤十字病院をいかに「活用」するか、そのために何ができるか、問われているのはそのことであると思えます。

全国に「病院」と名がつく施設が約九千あるそうです。そして既報(8月19日付「道新」)の通り、厚労省の「評価」の対象として指定されているのが1390の病院です。この1390の病院を「7項目」で評価して、医療費支払い制度の基準としています。北見赤十字病院は、「6項目」をクリアして、全国で「64位以内」の病院と評価されました。

クリアした6項目は、「脳卒中治療」「地域がん登録(がん患者の情報収集と整理)」「救急医療」「災害時医療」「へき地医療」「周産期医療」で、ただ一つクリアできなかったのが「がん治療」について。地域の他の医療機関との役割分担を調整する仕組み(クリティカルパス)ですが、ほどなくこれもクリアできる見通しです。そうならば「全国で5位以内の病院」となります。

去る8月28日(土)の公開講座「ここまでのきた北見のがん医療」で、吉田茂夫院長、水沼正弘産婦人科部長、金井直樹頭頸部・耳鼻咽喉科部長、上林実消化器内科部長から、北見赤十字病院における「がん治療」の実際が詳細に報告されました。がん治療に何の不安もないとわかりましたが、しかし、早期発見の重要さをあらためて思い知る機会ともなりました。市民の皆さん、おつこうがらないで「がん検診」を、です。



支援につながる一歩

会員

M・K

私ごとですが、最近ゴルフを始めました。これがなかなか面白いです。スポーツで、多くの人が夢中になるのもわかります。なかなかすぐに上達しません。特にマナーを大切にしたいです。

谷川代表からの「日赤に対する非難の声ばかりで、感謝や応援する声がないので是非何かしたい」との突然のお手紙から始まった「支援する会」ですが、私のように病院にほとんどお世話になったことがなく、全く関心が高かった人もいます。今までは知らなかった日赤病院のことや医療問題、そして政治経済の話も聞き、勉強しながら少しずつ理解していくことが、日赤を支援する一歩につながるのではないのでしょうか。

そして多くのかたに、今後の最先端医療にとって日赤の役割がもっともつと重要になってくること、一刻も早い充実した設備環境を整えることが、自分達市民のために必要であるということを知ってもらえるよう「支援する会」も病院づくりの一端を担っていきたいと思います。